「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

令和 7 年 2 月 19 日　Ver. 1.1

空調年間活動量算定ツールを用いた吸収式冷凍機の年間燃料使用量および電力使用量の算定

[本ツールの目的]

空調年間活動量算定ツール（吸収式冷凍機版）（以下、本ツールという）は、吸収式冷凍機の年間燃料使用量および電力使用量を吸収式冷凍機の基本性能と使用条件だけから合理的に推算することを目的としたものである。推算のための条件は、原則として JIS B 8622:2016「吸収式冷凍機」に基づいている。

本来、吸収式冷凍機の燃料使用量および電力使用量は実測することが前提であるが、何らかの理由で実測ができない場合の代替手段として本ツールの使用を想定している。そのため、本ツールによって得られた結果は算定の不確かさが小さくないことに留意する必要がある。したがって、本ツールで得た結果は、1 週間程度の実測により補正されることが望ましい。

[本ツールの特徴]

本ツールは、空調負荷および吸収式冷凍機の性能が外気湿球温度により一義的に決まるものと考え、外気湿球温度の発生頻度（時間）を地域、運転期間・時間帯ごとに計算して積算し、年間の燃料使用量および電力使用量を推算している。本ツールでは、外気温度に代えて外気湿球温度を境界条件としている。空調負荷との係わりにおいては同負荷が外気のエンタルピーに大きく支配されること（エンタルピーと湿球温度はほぼ 1 対 1 の対応関係）、そして、性能に関しては冷却塔を介して直接的な関係にあることによる。

代表地点の外気湿球温度データや計算式はすべて計算シートに含まれているので、指定の入力セルに必要事項を入力すれば計算が実行され、吸収式冷凍機の年間燃料使用量および電力使用量が算定される。本解説書ではその計算過程を説明する。

[使用条件]

本ツールは、簡略のため、都道府県内各地の気象条件を当該都道府県庁所在都市等の過去 30 年間の時別平均外気湿球温度（気象庁発表の外気乾球温度と相対湿度より計算により求めた。）で代表している。山間部、僻地等、都道府県庁所在都市等と気象条件が大きく異なる場合は、他の都道府県を入力しても構わない。たとえば、東京都小笠原村の場合、設置場所入力で、東京都ではなく沖縄県と入力する方が算定の不確かさは小さくなる。

また、本ツールは標準的な吸収式冷凍機の使用を想定している。発熱の大きな設備機器のある工場空調や負荷が外気温に依存しないデータセンター、冷房の室温設定が異常に低い中温空調への適用は想定していない。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

[本ツールの適用範囲]

本ツールは、設備更新の効果を簡易的に把握するために開発されたものであり、他の目的に利用することは想定されていない。

[免責事項]

本ツールは、あらゆる入力に対して正しい計算結果が得られることを保証するものではない。計算結果の取り扱いについては自己責任とすることに同意できる場合のみ使用できる。

[本ツールの改訂]

本ツールは予告なく改訂される場合がある。利用の際には、環境省ウェブサイトから最新版を入手し、使用していただきたい。

[本ツールの使い方]

本ツールを使用するに当たって、事前に EXCEL のマクロの設定を有効にしておく必要がある（設定方法は EXCEL のバージョンによるが、例えばファイル ⇒ オプション ⇒ トラストセンター ⇒ トラストセンターの設定 ⇒ マクロの設定 で設定できる）。本ツールの EXCEL ファイルをダウンロードしたら、ファイルを開く前にファイル名を右クリックしてプロパティを開き、一番下に表示されるセキュリティの項目の「許可する」にチェックを入れてから OK ボタンを押す。



図 1 利用開始前の EXCEL ファイルのプロパティ画面

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

以降は、ファイルを開いた状態での説明になる。

利用者が入力する必要がある項目については、**[ ]付の太字**にて示した。また、シート上では、入力する必要があるセルは全て黄色に着色されている。

1. 吸収式冷凍機年間燃料使用量および電力使用量算定のための条件入力

初めに **[設置場所（都道府県名）]** のプルダウンによる入力を行う。条件入力セルは、全て黄色に着色されている。

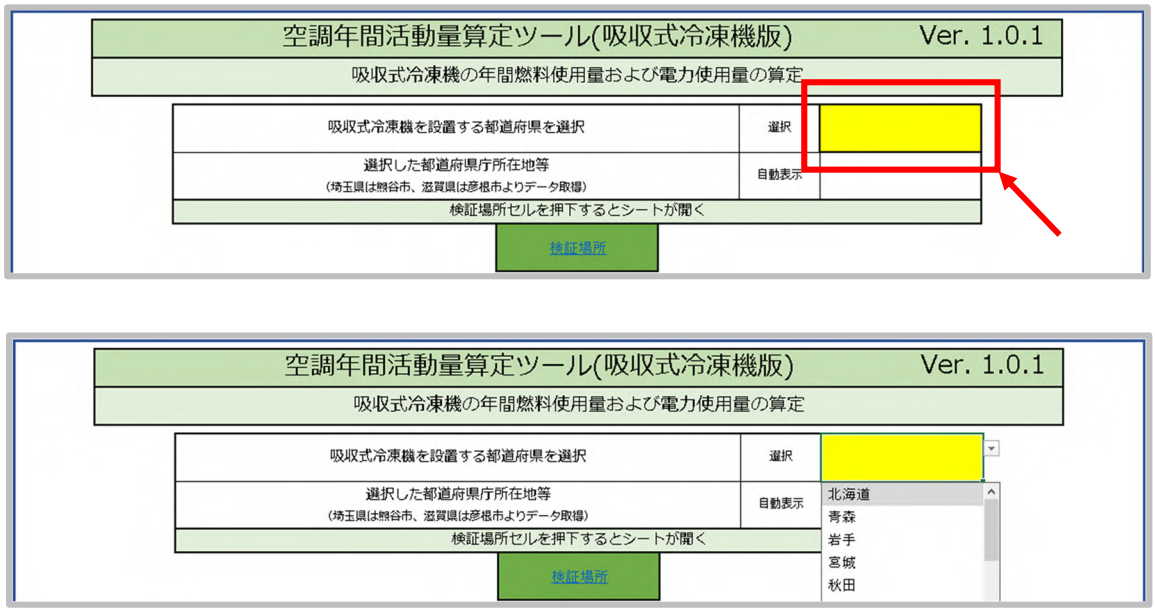


図 2 吸収式冷凍機年間燃料使用量および電力使用量算定のための条件の入力画面

本ツールでは、簡略のため当該都道府県内各地の気象条件（外気湿球温度）を都道府県庁所在都市等で代表することにしているので、上記の入力に対して都道府県庁所在都市等名が返され、新たなシートが開く。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

そのあと**［運転期間］**、**［運転時間帯］**、**［月毎の運転日数］**を入力する。その方法を以下に示す。

初めに、図 3 に示す画面で、空調を行う月および時間のセルを指定の色で塗りつぶす。指定の色は、EXCEL 画面上部メニューからホームを選択し、塗りつぶしの色ボタンの右側▼を押して、冷却であれば左から 5 列目の一番薄い青、加熱であれば左から 6 列目の一番薄いオレンジを選択する（図４、5）。指定の色以外の色で塗りつぶすと正しく計算できないので注意が必要である。運転時間帯は、月毎に変えることも可能である。図 3 は 8 時から 20 時までの運転の例であり、20 時の列まで塗ると終了が 21 時になる。



取次式冷凍機の設置場所

東京

手順1：空調を行う月、時間を下記の指定の色で塗る(指定の色以外で塗ると計算できません。)

冷却	青	(左から5列目、一番薄い色(アクセント1,白+基本色80%))
加熱	オレンジ	(左から6番目、一番薄い色(アクセント2,白+基本色80%))

手順2：各月の運転日数を入力する

手順3：Ctrl + Alt + F9を同時に押す

手順4：黄色のセルに値を入力する(線は自動計算)

●時刻別平均外気湿球温度表記載の数値は、選択された都道府県の県庁所在地等の月別、時刻別平均外気湿球温度

●本データは気象庁発表の1992年4月1日から2022年3月31日までの30年の1時間データを整理したもの

●2月はうるう日を含みます

時刻別平均外気湿球温度[℃]

月	時刻 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	年間日 運転日数	月
4	10.0	9.8	9.6	9.3	9.2	8.9	9.0	9.3	9.7	10.2	10.6	11.0	11.3	11.5	11.6	11.5	11.5	11.4	11.2	11.0	10.8	10.7	10.5	10.3		4
5	14.6	14.5	14.3	14.2	14.1	14.0	14.1	14.4	14.7	15.0	15.3	15.6	15.8	15.9	15.9	15.9	15.8	15.7	15.6	15.4	15.3	15.1	15.0	14.9		5
6	18.4	18.3	18.2	18.1	18.0	18.0	18.1	18.3	18.5	18.8	19.0	19.2	19.4	19.5	19.5	19.5	19.5	19.4	19.2	19.1	18.9	18.8	18.7	18.7		6
7	22.1	22.1	22.0	21.9	21.9	21.8	22.0	22.2	22.4	22.6	22.9	23.1	23.2	23.3	23.3	23.3	23.2	23.1	22.9	22.7	22.6	22.5	22.4	22.3		7
8	23.3	23.2	23.1	23.1	23.0	22.9	23.0	23.2	23.4	23.5	23.8	24.0	24.1	24.1	24.2	24.1	24.0	24.0	23.8	23.6	23.5	23.5	23.4	23.3		8
9	20.1	20.0	19.9	19.8	19.7	19.6	19.6	19.7	19.9	20.2	20.4	20.5	20.7	20.8	20.8	20.8	20.8	20.7	20.6	20.5	20.4	20.3	20.2	20.1		9
10	14.9	14.7	14.5	14.3	14.1	14.0	13.8	14.0	14.3	14.6	15.0	15.3	15.6	15.7	15.7	15.7	15.7	15.5	15.5	15.4	15.2	15.1	15.0	14.9		10
11	9.3	9.1	8.9	8.6	8.4	8.2	8.1	8.2	8.5	9.0	9.5	10.0	10.4	10.6	10.7	10.8	10.7	10.5	10.4	10.3	10.1	9.9	9.6	9.4		11
12	4.1	3.9	3.6	3.4	3.2	3.1	3.1	3.0	3.3	4.0	4.6	5.1	5.6	5.9	6.0	6.0	5.8	5.5	5.3	5.1	4.9	4.7	4.5	4.2		12
1	1.6	1.3	1.1	0.9	0.7	0.5	0.4	0.4	0.8	1.4	2.1	2.7	3.1	3.5	3.6	3.6	3.5	3.2	2.9	2.7	2.5	2.3	2.1	1.8		1
2	2.3	2.0	1.7	1.5	1.2	1.1	1.0	1.0	1.4	2.0	2.6	3.2	3.7	4.0	4.3	4.3	4.3	4.0	3.8	3.6	3.4	3.2	2.9	2.7		2
3	5.5	5.2	5.0	4.7	4.4	4.3	4.1	4.3	4.7	5.3	5.8	6.3	6.8	7.1	7.2	7.3	7.3	7.1	6.9	6.7	6.6	6.4	6.1	5.8		3

定格条件【冷却】	冷却水	入口温度	32℃	冷水	入口温度	12℃
		出口温度	37.5℃		出口温度	7℃

定格条件【加熱】	温水	出口温度	55℃

図 3 空調運転時間等入力画面（東京）の例

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

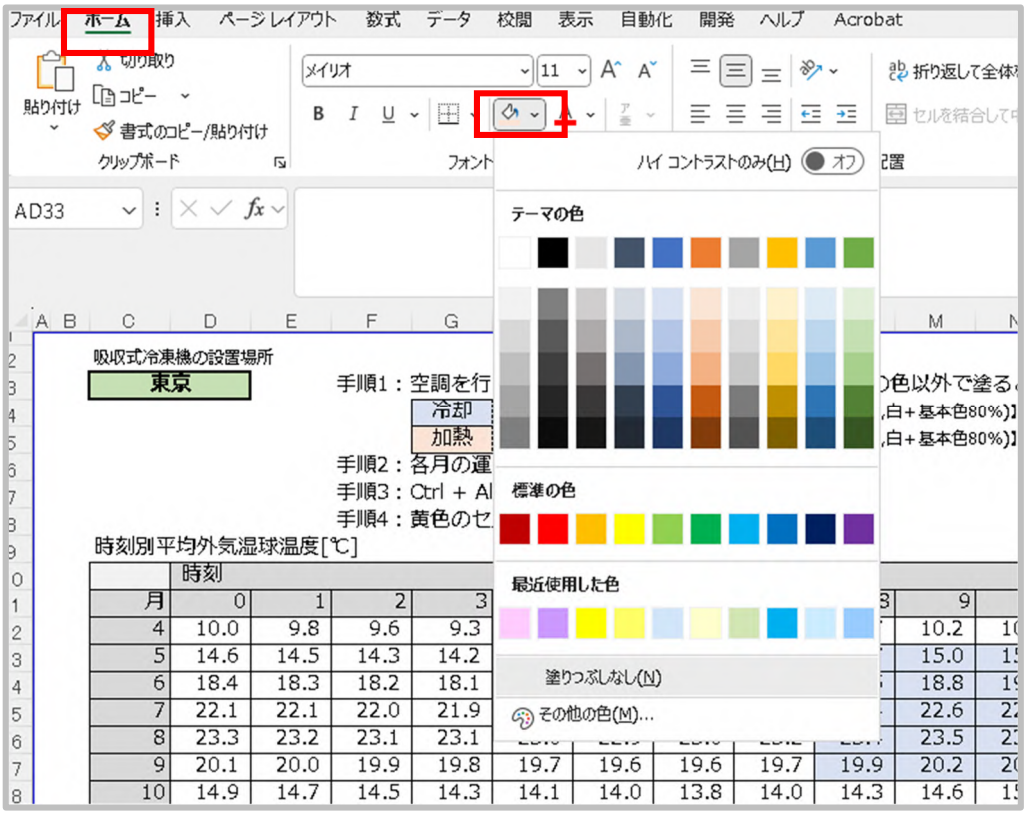


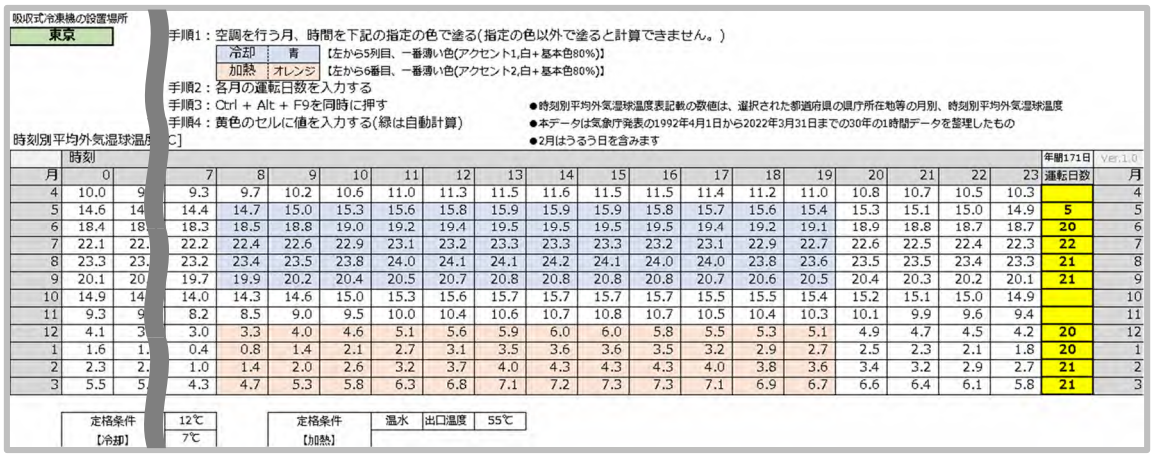
図 4 塗りつぶす色の選択画面__1



図 5 塗りつぶす色の選択画面__2

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

空調を行う月の塗りつぶしを終えたら、次に各月の運転日数を最終列に入力する。空調を行わない月については、空欄のままで良い。



吸収式冷凍機の設置場所
東京

手順1：空調を行う月、時間を下記の指定の色で塗る(指定の色以外で塗ると計算できません。)
冷却 青 【左から5列目、一番薄い色(アクセント1,白+基本色80%)】
加熱 オレンジ 【左から6番目、一番薄い色(アクセント2,白+基本色80%)】
手順2：各月の運転日数を入力する
手順3：Ctrl + Alt + F9を同時に押す
手順4：黄色のセルに値を入力する(緑は自動計算)

●時刻別平均外気湿球温度表記載の数値は、選択された都道府県の県庁所在地等の月別、時刻別平均外気湿球温度
●本データは気象庁発表の1992年4月1日から2022年3月31日までの30年の1時間データを整理したもの
●2月はうるう日を含みます

時刻別平均外気湿球温度[℃]

月	時刻 0		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	年間171日 運転日数	月
4	10.0	9	9.3	9.7	10.2	10.6	11.0	11.3	11.5	11.6	11.5	11.5	11.4	11.2	11.0	10.8	10.7	10.5	10.3		4
5	14.6	14	14.4	14.7	15.0	15.3	15.6	15.8	15.9	15.9	15.9	15.8	15.7	15.6	15.4	15.3	15.1	15.0	14.9	5	5
6	18.4	18	18.3	18.5	18.8	19.0	19.2	19.4	19.5	19.5	19.5	19.5	19.4	19.2	19.1	18.9	18.8	18.7	18.7	20	6
7	22.1	22.	22.2	22.4	22.6	22.9	23.1	23.2	23.3	23.3	23.3	23.2	23.1	22.9	22.7	22.6	22.5	22.4	22.3	22	7
8	23.3	23.	23.2	23.4	23.5	23.8	24.0	24.1	24.1	24.2	24.1	24.0	24.0	23.8	23.6	23.5	23.5	23.4	23.3	21	8
9	20.1	20	19.7	19.9	20.2	20.4	20.5	20.7	20.8	20.8	20.8	20.8	20.7	20.6	20.5	20.4	20.3	20.2	20.1	21	9
10	14.9	14	14.0	14.3	14.6	15.0	15.3	15.6	15.7	15.7	15.7	15.7	15.5	15.5	15.4	15.2	15.1	15.0	14.9		10
11	9.3	9	8.2	8.5	9.0	9.5	10.0	10.4	10.6	10.7	10.8	10.7	10.5	10.4	10.3	10.1	9.9	9.6	9.4		11
12	4.1	3	3.0	3.3	4.0	4.6	5.1	5.6	5.9	6.0	6.0	5.8	5.5	5.3	5.1	4.9	4.7	4.5	4.2	20	12
1	1.6	1.	0.4	0.8	1.4	2.1	2.7	3.1	3.5	3.6	3.6	3.5	3.2	2.9	2.7	2.5	2.3	2.1	1.8	20	1
2	2.3	2.	1.0	1.4	2.0	2.6	3.2	3.7	4.0	4.3	4.3	4.3	4.0	3.8	3.6	3.4	3.2	2.9	2.7	21	2
3	5.5	5	4.3	4.7	5.3	5.8	6.3	6.8	7.1	7.2	7.3	7.3	7.1	6.9	6.7	6.6	6.4	6.1	5.8	21	3

定格条件【冷却】 12℃ 7℃
定格条件【加熱】 温水 出口温度 55℃

Ver.1.0

図 6 空調運転時間等入力例（東京）

以上の入力が終わったら、 **Ctrl + Alt + f9 キー**を同時に押す。これにより、計算シートがアクティブになる。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

次に、吸収式冷凍機の仕様を入力する。

2.年間燃料使用量および電力使用量

［吸収式冷凍機の定格性能］を以下により入力する。

［燃料種類の選択］		都市ガス 13A	プルダウンリストによる
［定格冷却能力］	Φco	879.0	［kW］
［定格冷却燃料消費量］	Pco	53.0	［Nm^3/h］
［定格冷却 COP］	σco	1.33	＝Φco/Pco
［定格加熱能力］	Φwo	660.0	［kW］
［定格加熱燃料消費量］	Pwo	58.0	［Nm^3/h］
［定格加熱 COP］	σwo	0.91	＝Φwo/Pwo
［冷却塔ファンモータ定格出力］	P_f *1	7.5	［kW］
［冷却水ポンプモータ定格出力］	P_{p1}	22.0	［kW］
［冷温水ポンプモータ定格出力］	P_{p2}	15.0	［kW］
［最大冷却負荷］ *2	Qc		［kW］

注：定格条件

【冷却】			【加熱】	
冷却水入口温度	32	℃		
冷却水出口温度	37.5	℃		
冷水入口温度	12	℃		
冷水出口温度	7	℃	温水出口温度	55 ℃

*1：吸収式冷凍機本体で消費される溶液ポンプ他の消費電力は、燃料消費量に比べて十分小さいので補機電力として計上しない。

*2：［最大冷却負荷］には［定格冷却能力］を上回る値は入力できない。



定格条件【冷却】	冷却水	入口温度	32℃	冷水	入口温度	12℃	定格条件【加熱】	温水	出口温度	55℃
		出口温度	37.5℃		出口温度	7℃				

				前1	前2	前3	
設備導入前	燃料種類	吸収式冷凍機の燃料の種類を選択（プルダウン）		都市ガス13A			
	定格冷却能力	吸収式冷凍機の仕様を入力	Φco	879.0			kW
	定格冷却燃料消費量	吸収式冷凍機の仕様を入力（入力単位に気を付けてください）	Pco	53.0			Nm3/h ←入力単位
	定格冷却COP	自動計算 ）	σco	1.33			σco＝Φco／Pco
	定格加熱能力	吸収式冷凍機の仕様を入力	Φwo	660.0			kW
	定格加熱燃料消費量	吸収式冷凍機の仕様を入力（入力単位に気を付けてください）	Pwo	58.0			Nm3/h ←入力単位
	定格加熱COP	自動計算	σwo	0.91			σwo＝Φwo／Pwo
	冷却塔ファンモータ定格出力	吸収式冷凍機の仕様を入力	Pf	7.5			kW
	冷却水ポンプモータ定格出力	吸収式冷凍機の仕様を入力	Pp1	22.0			kW
	冷温水ポンプモータ定格出力	吸収式冷凍機の仕様を入力	Pp2	15.0			kW
	最大冷却負荷	設計時の値を入力（不明の際は空白のまま）	Qc				kW

図 7 吸収式冷凍機の定格性能（γ ≦ 1）の入力画面

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

以上の入力で、目的の吸収式冷凍機年間燃料使用量および電力使用量が算定される。なお、算出式の詳細は末尾の Appendix を参照のこと。

例：東京

		【冷却】			【加熱】	
主機の年間エネルギー使用量	Ecc′：	5,239	[GJ]	Eww′：	2,924	[GJ]
補機の年間エネルギー使用量	Eaxc′：	868	[GJ]	Eaxw′：	212	[GJ]
全体の年間エネルギー使用量	Ec：	6,107	[GJ]	Ew：	3,136	[GJ]
主機の年間燃料使用量	Ecc″：	116	[千 Nm^3]	Eww″：	65	[千 Nm^3]
補機の年間電力使用量	Eaxc″:	100	[千 kWh]	Eaxw″：	25	[千 kWh]

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

Appendix

① 冷却

$$Ecc = \left(\frac{\Phi co}{\sigma co}\right) \times \left(\sum_{i=1}^{m} \varepsilon ci \times tci\right) \times fs \times Rc \qquad (1)$$

ここで、

Ecc	:	主機の期間燃料使用量［kWh］	
Ecc′	:	同上［GJ］	（1′）
		＝（Ecc/1000） × 3.6	
Hh	:	燃料の高位発熱量	
		（13A の場合＝45［GJ/千 Nm^3］）	
Ecc″	:	主機の期間燃料使用量［千 Nm^3］	（1″）
		＝Ecc′ ÷ Hh	
Eaxc	:	補機の期間電力使用量［kWh］	
		＝（Pf+P_{p1}+Pp_2）×Σ（$\alpha ci^{0.6}$×tci）（i＝1,m）	（2）
Eaxc′	:	同上［GJ］	
		＝（Eaxc/1000）×ep[※5]×3.6	（2′）
Eaxc″	:	同上［千 kWh］	
		=Eaxc ÷ 1000	（2″）
Ec	:	主機の期間燃料使用量［GJ］	
		＝Ecc′ ＋ Eaxc′	（3）
Φco	:	定格冷却能力［kW］	
σco	:	定格冷却 COP［－］	
εc	:	冷却時消費電力比［－］	
		＝αc ÷βc	（4）
αc	:	冷却空調負荷率［－］	
		＝（1/13）×（Tw－27）＋1	（5）
		外気湿球温度 27℃（負荷 100%）と外気湿球温度 14℃	
		（負荷０%）を結ぶ直線	
βc	:	冷却 COP 比［－］	
		＝-1.36×$10^{-3}$$Tc1^2$+0.121Tc1－1.46	（6）
Tc1	:	冷却水入口温度［℃］	
		＝（18/13）×（Tw－27）＋32	（7）
		外気湿球温度 27℃（冷却水入口温度 32℃）と外気湿球温度	
		14℃（冷却水入口温度 14℃）を結ぶ直線	
Tw	:	外気湿球温度［℃］	
Pf	:	冷却塔ファン電力［kW］	
P_{p1}	:	冷却水ポンプ電力［kW］	
P_{p2}	:	冷水ポンプ電力［kW］	
tc[*3]	:	冷却運転時間［h］	

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

fs[*4] ： 機器選定余裕率［－］

＝Qc ÷ Φco （8）

Rc[*5] ： 定格冷房能力の更新前後比［－］

＝Φcob ÷ Φcoa （9）

Φcoa ： 更新後定格冷却能力［kW］

Φcob ： 更新前定格冷却能力［kW］

＊3：システムのデータベースより地域、運転期間、時間帯、他の入力に応じた値が返される。

＊4：最大冷却負荷と定格冷却能力の差を埋めるための補正係数。空調設備設計時に想定した最大冷却負荷が不明で未入力のときには、既定値として 0.8 で計算を行う。

＊5：更新後の定格冷房能力が更新前の定格冷房能力と異なる場合の処置で、更新後の試算にのみ係わる。

＊6：更新後の定格冷却能力が更新前のそれと異なる場合の処置で、更新後の計算にのみ係わる。

＊7：電力エネルギーの一次/二次変換係数（ep＝8,640/3,600=2.40）

添え字 a ： 更新後

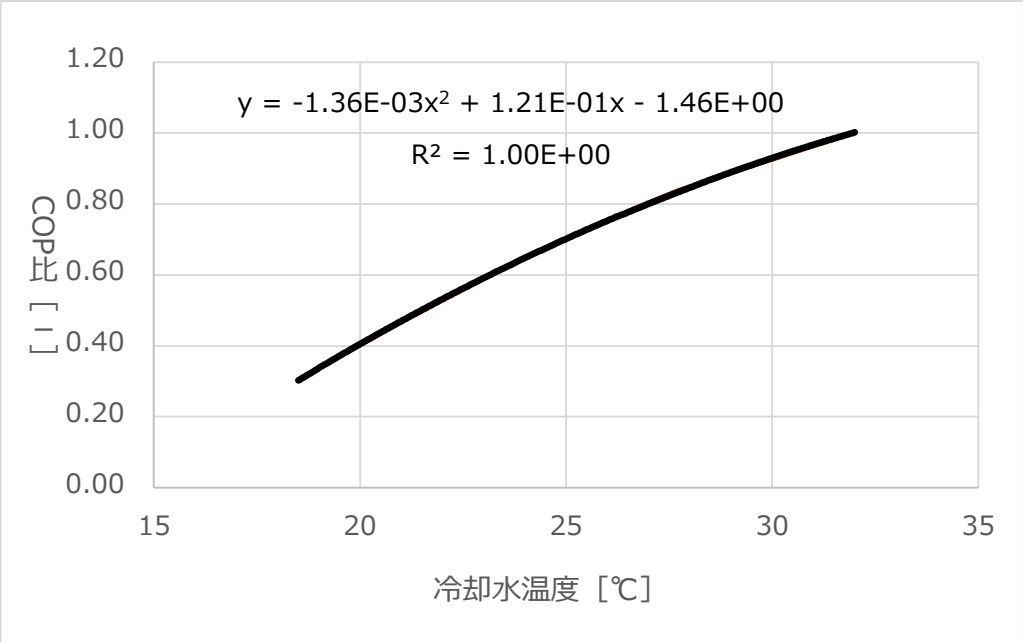
b ： 更新前

c ： 冷却

i ： 1～m（冷却を行う外気湿球温度番号）

o ： 定格（基準）

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）



引用）「吸収式冷凍機（高田秋一・吉川光雄著、省エネルギーセンター）」より省エネルギーセンターが作成

図 8 COP 比と冷却水温度（吸収式冷凍機 冷却）

さて、式（6）では、吸収式冷凍機の性能（COP 比）を冷却水入口温度の関数として整理したが、本算定システムの境界条件は外気湿球温度である。そこで、冷却水温度と外気湿球温度の関係を式（8）の通り関連付けた。

JIS B 8622:2016 によると、冷却負荷 αc 100%時の冷却水入口温度（Tc1）は 32［℃］、その時の外気湿球温度（Tw）は 27［℃］で、冷却負荷の 25%減少毎に冷却水入口温度が 4.5［℃］下がるとしている。これより、冷却水温度が 32℃－4.5℃×（100%÷25%）＝14℃になると冷却負荷はゼロになり、冷却水温度は負荷ゼロにつき、外気湿球温度と等しくなると考えることができる。これより、冷却水温度と外湿球温度の関係は式（8）の通りとなり、冷却 COP 比βc を外気湿球温度 Tw の関数として式（7）で表すことができる。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

$$\beta c = -2.62\times10^{-3}Tw^2+0.188Tw-2.15 \quad (Tw> =17.3℃) \qquad (7)$$
$$= (0.31/3.25)\times(Tw-14) \quad (Tw<17.3℃)$$

以上、式（１）～式（９）の内容で外気湿球温度を横軸に図解すると、図９のようになる。

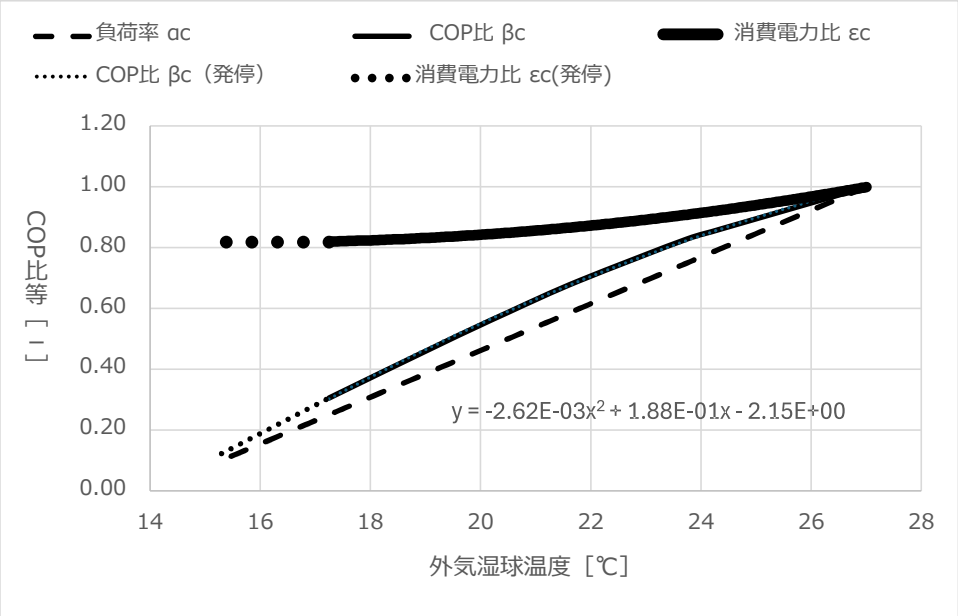


図９ COP 比等と外気湿球温度の関係

負荷率 αc は外気湿球温度 27［℃］（外気温度 35［℃］に対応）を基準として、負荷ゼロ点である外気湿球温度 14［℃］を結んだ直線（式（５））で与えられる。また COP 比 βc は、外気湿球温度 27[℃]（吸収式冷凍機の定格条件である冷却水入口水温 32［℃］に対応）を基準として、冷水の出口温度７［℃］（一定）、冷水量および冷却水量一定のもとに外気湿球温度との関係として、式（７）を得た。式（７）では、外気湿球温度 17.3［℃］で式を使い分けているが、この湿球温度は、吸収式冷凍機の負荷率 25%に対応していて、ここが連続制御の下限値とし、これ以下の負荷率では吸収式冷凍機は ON/OFF 制御をするとし、燃料消費量が負荷率 25%時のそれと等しくなるよう、直線の式を定めた。そしてαc とβc の比が、外気湿球温度 27[℃]の基準点における消費電力に対する燃料消費量比 εc となる。

ここで、式（１）の右辺の最初の（　）内数値は、定格冷却能力を定格 COP で除した吸収式冷凍機の定格燃料消費量 Pco となるので、Σ内の燃料消費量比 εc と外気湿球温度の発生頻度 tc（時間）を掛けたものを足し合わせれば期間の燃料使用量および電力使用量が算定される。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

② 加熱

$$Eww = \left(\frac{\Phi wo}{\sigma wo}\right) \times \left(\sum_{i=1}^{n} \alpha wi \times twi\right) \times Rw \qquad (10)$$

ここで、

Eww	:	主機の期間燃料使用量［kWh］	
Eww′	:	同上［GJ］	
		＝（Eww/1000）×3.6	(10′)
Eww″	:	主機の期間燃料使用量［千 Nm^3］	
		＝Eww′ ÷ Hh	(10″)
Hh	:	燃料の高位発熱量［GJ/千 Nm3］	
		（13A の場合＝45［GJ/千 Nm^3］）	
Eaxw	:	補機の期間電力使用量［kWh］	
		＝P_{p2}×Σ（$\alpha wi^{0.6}$×twi）（i＝1,n）	(11)
Eaxw′	:	同上［GJ］	
		＝（Eaxw/1000）×ep[※6]×3.6	(11′)
Eaxw″	:	同上［千 kWh］	
		=Eaxw ÷ 1000	(11″)
Ew	:	同上［GJ］	
		＝Eww′ ＋ Eaxw′	(12)
Eax	:	補機の期間電力使用量［kWh］	
σwo	:	定格加熱 COP［－］	
αw	:	加熱空調負荷率［－］	(13)
		＝（－1/18.1）×（Tw－11.4）	
		外気温度−5℃（外気湿球温度－6.7℃）の負荷率を 100%とし、	
		外気温度 15℃（外気湿球温度 11.4℃）の負荷率を 0 %とし、	
		この間を湿球温度の関数として直線で結んだ式	
		外気乾球温度から湿球温度への転換は、相対湿度が 65%とし	
		て行った	
Tw	:	外気湿球温度［℃］	
P_{p2}	:	冷温水ポンプ電力［kW］	
tw[*7]	:	加熱運転時間［h］	
Rw[*8]	:	定格加熱能力の更新前後比［－］	
		＝Φwob ÷Φwoa	
Φwo	:	定格加熱能力［kW］	
Φwoa	:	更新後定格加熱能力［kW］	
Φwob	:	更新前定格加熱能力［kW］	

*7：システムのデータベースより地域、運転期間、時間帯、他の入力に応じた値が返さ

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

れる。

*8：更新後の定格加熱能力が更新前の定格加熱能力と異なる場合の処置で、更新後の試算にのみ係わる。

以上